

目次

１．全体概要 １

２．日程表 ２

３．カリキュラム別の報告 ３

　３－１．全体会「通訳・介助員に望むこと～盲ろう者の本音を聞く～」 ３

　３－２．Ａ分科会「通訳・介助員の悩み」 ９

　３－３．Ｂ分科会「音声通訳」 １４

　３－４．Ｃ分科会「通訳・介助員の心構えと倫理」 １７

　３－５．全体会「福祉制度について」 ２３

平成２８年度 盲ろう者向け通訳・介助員現任研修会　報告書

１．全体概要

（１）目的

盲ろう者の自立と社会参加を図るため、盲ろう者向け通訳・介助員を対象として、盲ろう者についての知識やよりよい介助方法をはじめ、コミュニケーション技術等盲ろう者の多様なニーズに応えることのできる知識並びに技術等について研修することにより、盲ろう者向け通訳・介助員の資質の向上を図ることを目的とする。

（２）日程

平成２８年９月２４日（土）、２５日（日）　２日間

（３）場所

ＴＫＰガーデンシティ仙台勾当台

〒９８０－０８０３　宮城県仙台市青葉区国分町３丁目６番１号　仙台パークビルヂング

（４）カリキュラムの概要

平成２８年９月２４日（土）、２５日（日）の２日間、宮城県仙台市「ＴＫＰガーデンシティ仙台勾当台」にて、平成２８年度盲ろう者向け通訳・介助員現任研修会を開催した。研修会には全国から８９名の盲ろう者向け通訳・介助員が受講した。

今年度は例年の３日間から２日間の日程に変更し、分科会も例年は６つの分科会を行っていたが、３つの分科会に縮小し、より充実した内容のものを企画した。

初日の全体会では三重盲ろう者きらりの会より北澤真紀（きたざわまき）氏、山形県盲ろう者友の会より鍬形和志（くわがたかずし）氏、全国盲ろう者団体連絡協議会より高橋信行（たかはしのぶゆき）氏、みやぎ盲ろう児・者友の会より石黒昌道（いしぐろまさみち）氏の４名の盲ろう者をパネラーとしてお招きし、普段、通訳・介助を受ける中で感じている本音の部分をお話し頂いた。

２日目の分科会では「通訳・介助員の悩み」「音声通訳」「通訳・介助員の心構えと倫理」の３つのテーマを設け、講義、実践、ディスカッション等が行われた。

午後の全体会は東京都盲ろう者支援センター・センター長の前田晃秀（まえだあきひで）氏と当協会事務局長の山下より、福祉制度について講演頂いた。今年度は障害者差別解消法が施行されたこともあり、複雑化した制度内容の講義がなされた。

２．日程表

９月２４日（土）

|  |  |
| --- | --- |
| １２：５０～ | 受付 |
| １３：３０～ | 開講式 |
| １３：５０～１７：００ | 全体会「通訳・介助員に望むこと～盲ろう者の本音を聞く～」 |
| １７：３０～１９：３０ | 意見交換会 |

９月２５日（日）

|  |  |
| --- | --- |
| ９：３０～１２：３０ | Ａ分科会「通訳・介助員の悩み」 |
| Ｂ分科会「音声通訳」 |
| Ｃ分科会「通訳・介助員の心構えと倫理」 |
| １２：３０～１３：３０ | 休憩 |
| １３：３０～１６：３０ | 全体会「福祉制度について」 |
| １６：３０～ | 閉講式 |

受講者数…８９名

３．カリキュラム別の報告

３－１．全体会「通訳・介助員に望むこと～盲ろう者の本音を聞く～」

パネラー：

石黒 昌道氏（全盲ろう・みやぎ盲ろう児・者友の会）

北澤 真紀氏（弱視ろう・三重盲ろう者きらりの会 会長）

鍬形 和志氏（弱視難聴・山形県盲ろう者友の会 会長）

高橋 信行氏（全盲難聴・全国盲ろう者団体連絡協議会 会長）

司会：

畑中 みさよ氏（ＮＰＯ法人鹿児島県盲ろう者友の会いぶき 通訳・介助員）

ねらい：

ろうベース、盲ベースそれぞれの盲ろう者から自身の望んでいる通訳・介助員像をお話し頂き、普段感じている本音の部分を語ってもらう。それを聞くことで、日々の実践の振り返りと、今後の通訳・介助に活かすことを考える。

以下、パネルディスカッションの内容を記す。

**質問１．通訳・介助を受ける際、通訳・介助員に対し、例えば手引きの細かい方法や、通訳内容がよくわからないなど、自分の率直な希望や気持ちを言えますか。**

高橋／

通訳・介助において通訳・介助員への要望を盲ろう者が伝え、通訳・介助員がそれを受け入れてスキルアップしていくという流れはとても大切である。通訳・介助は回を重ねれば上達するものである。そのためには２つの条件が揃っていなければならない。１つ目は、盲ろう者が自分自身の要望をわかりやすく、具体的に説明出来ること。２つ目は通訳・介助員が盲ろう者からの意見を真摯に受け止め、技術を高めようとしていること。この２つの条件が揃わないと、「通訳・介助をすればするほど腕が上がる」ということにはならない。

「このことを要求しても問題ないか」ということは通訳・介助を受けながら判断する。解決しやすそうなものから難しそうなものまで、盲ろう者の要望は多岐に渡る。どこまでなら要望が出来そうか常に考えている。誰でも無理なことを要望されれば壊れてしまうので、そこを超えないようにしないといけない。関係性のこともあるので結局、人間関係のところに突き当たるのではないかと思う。

盲ろう者にも通訳・介助員にも責任があり、上手くいくためには二人三脚が必要である。

北澤／

私は通訳内容がわからない場合は、はっきり聞き返す。しかし盲ろう者の中には聞きたくても聞けないという方もいる。これまで様々な通訳・介助を受けてきたが、通訳・介助員は技術よりも気持ちが大切である、ということをあらためて思う。通訳・介助は「仕事」であるということを強く意識して欲しい。通訳・介助技術の向上にもなり、通訳・介助をすることで気持ちも明るくなるだろう。

会議に参加していても、途中から誰の意見なのかがわからなくなることがある。必ず名前をきちんと伝えて欲しい。そうすれば、私も落ち着いて発言者の意見を聞ける。細かい話だが、その細かいことに気づくのも大事なことである。

鍬形／

その場で即座に「わからない」とは言えない。私は音声通訳をメインで受けているが、なかなか私のほうを向いて通訳をしない。近づいても聞き取れないこともある。伝える人も心をこめて伝えて欲しいと思う。それを通訳・介助員に伝えると「今まではこのようにやっていた」と言われがっかりしたこともあった。通訳・介助員も意識を高く持ち仕事をして欲しい。

石黒／

通訳・介助員のほとんどは時によって不安を抱き、緊張する。そのような通訳・介助員には、こちらから通訳、及び介助の自分のニーズについて説明することにしている。経験を積み重ねることにより、自然とコツを掴めれば通訳と介助の技術が上がると思う。

通訳を受けている途中でわからなくなったときは、確認のため聞くようにしている。例えば、会議などは途中で通訳を止めることが出来ないので、終了後、聞き漏れた箇所を確認するようにしている。

皆さんも不安や迷いがあるだろうが、盲ろう者に最適な通訳・介助の方法とは何か、お互いに話し合って解決することを心掛けたいと思う。

**質問２．これまで受けた通訳・介助の中で、もう一度受けたいと思う、印象に残っていることは何ですか。**

北澤／

１点目は、全国盲ろう者大会でのこと。初めて私に付く通訳・介助員とお土産を見に行った。買いたい商品を店員に伝えたが、財布を席に忘れ、取りに戻ろうとすると「店員が包装紙で包んでくれている」と通訳・介助員が教えてくれた。そのおかげで私も早めに動くことが出来た。

２点目は、娘の大学の入学式に通訳・介助員と一緒に行った時のこと。入学式の内容や状況のほか、さらに音楽のリズムも教えてくれ、感動した。

３点目は、白杖を忘れて歩いているとき、階段で１段１段手を軽く叩いて教えてくれたこと。安心して降りることが出来た。

鍬形／

私は弱視のため、周囲の状況が掴みづらいので相手にきちんと伝わっているかどうか確認しながら話す。研修会等で発表の際は、肩を軽く叩く、丸を書く等の相槌をしてもらい、安心して意見を述べることが出来た。

石黒／

１点目は、以前は弱視で見えていたが、視力が段々低下して見えなくなってきた。手書き文字や拡大筆記による通訳を受けていたが、会議等の進行に追いつけなかったため、伝達される情報が乏しく、辛い思いをした。

その後、通訳方法が触手話に変わってからは情報がスムーズに、しかもリアルタイムに伝わるようになり、感激したこと。

２点目は、各地のろう者や手話通訳者と触手話で会話するとき、その地域の手話が面白く感じられるようになった。地域によって手話表現がまちまちで、勉強になったこと。

高橋／

音声通訳は、サインやジェスチャーを併用することにより、短時間でその場の状況が理解出来ることがある。そんな通訳を受けたときは嬉しい。音声だけで全てを言葉にするのは難しいが、サインやジェスチャーを加えると簡単に伝わる。その場の状況を理解した盲ろう者は、場に適した振る舞いが出来るということである。

例えば、私に挨拶をしてきた方がいたら、その方がいる方向を通訳・介助員が私の指をとって指し示し、挨拶している旨のサインをしながら「〇〇／おはようございます」と通訳をする。そうすると私も自ずとその方向を見る。これが音声通訳なら「右前方から〇〇さんが歩いてきます」などと説明するだろう。ジェスチャーだけでも不十分、音声通訳だけでも不十分である。しかしジェスチャーと音声通訳の２つを組み合わせると、「１+１＝２」ではなく、「１+１＝３以上」になっていく。そういう工夫を盲ろう者と通訳・介助員とで相談し、互いにスキルアップしていければよい。一人ひとりの盲ろう者に合わせて共同作業していくことが大事である。

音声とサインだけでなく、他の通訳方法でもよい。盲ろう者が格好良く振る舞えるときの通訳・介助員も格好良い。

**質問３．これまで受けた通訳・介助の中で嫌だなと感じたことは何ですか。**

鍬形／

約束の時間に遅れること。また、音声通訳が聞き取れない時はとても困る。

石黒／

私は、触手話で通訳を受けており、場面によって通訳方法はいろいろある。一般通訳だけでなく、コピー通訳もイメージ通訳もある。コピー通訳とは、通訳・介助員または手話通訳者が話し手の手話表現を読み取り、そのまま模写して盲ろう者に伝えるという通訳である。実際に触手話で通訳してもらったときの手話表現が話し手の手話表現と違ってしまったことがしばしばある。読み取った手話を日本語に訳さないというルールに従ってコピー通訳して頂きたい。

高橋／

２つの通訳・介助のタイプを紹介するのでそれらについて考えて欲しい。

*タイプ１．*

*歩いていると通訳・介助員が「止まってください」と言うので私は止まる。しばらくすると「進んでください」と言うので私は進む。そうして目的地に到着する。*

*タイプ２．*

*歩いていると、通訳・介助員が「交差点です。信号が赤です。」というので、私は止まった。そして、通訳・介助員が「信号が青になりました、進めます」と言うので、私は青になって進めることがわかったので犬に命じて進んだ。*

タイプ１は盲ろう者から思考を奪い、盲ろう者が何も考えなくてもよい状況である。思考を奪うということは、盲ろう者は認識や学習をしない、つまり成長しないということであり、一緒にいる通訳・介助員も成長するはずがない。

タイプ２のように、信号が青になったから進む、と盲ろう者が自分で判断して進む。通訳・介助はタイプ２でなくてはならない。

会議の場面も同様で、司会を盲ろう者が担当することになったらタイプ１の場合、通訳・介助員が「始めてください」「休憩してください」などと言い、その通りに盲ろう者は動くだろう。タイプ２の場合、通訳・介助員が「出席者の皆さんは席に着いています、スタンバイしている様子です」と言い、それを聞いた盲ろう者は時間を確認し、「ただいまから始めます」と自分で判断して話を始めるだろう。「速すぎて付いてきていない盲ろう者がいるようです」と伝えれば、盲ろう者はもう少しゆっくり進行するようになるだろう。タイプ１の通訳方法を行っていると、ただの「操り人形」になってしまう。そうなるくらいなら家に閉じこもっているほうがよい。タイプ１の通訳は嫌な気分になる。自身の通訳をタイプ２にするようにトレーニングして欲しい。

北澤／

１点目。１２時半が終了予定の学習会で司会を担当していた。通訳・介助員に時間を尋ねると「１２時２５分だから終わってもよいのではないか」と言われた。私は残り５分でも続けたいと思っていたので腹が立ち、がっかりした。終了後、「なぜあなたが決めるのか」とその通訳・介助員に聞いたが、何のことなのかわかっていなかった。

２点目。ある会議で参加者が疲れていそうなときに私は通訳・介助員に時間を尋ねた。すると、ただ時間を知りたかっただけなのに「〇〇時まで休憩してはどうですか」と言われた。

これらの２つのことは全て通訳・介助員が出過ぎているので、皆さんも気をつけて頂きたい。

**質問４．通訳・介助を受ける際に、通訳・介助員に一番大切にして欲しいと思うのはどんなことですか。**

石黒／

１点目。盲ろう者の通訳・介助のニーズに合わせて活動して欲しい。　　　  
例えば、触手話で新聞の代読通訳をする場合、難しい漢字があれば、時間がかかっても手書き文字でその漢字の詳細を説明するなどして欲しい。

２点目。私は点字ブロックが苦手だが、通行人とのすれ違いなどでやむを得ず点字ブロックを歩かなければならないときもある。ガイドにおけるイメージ通訳も必要で、周りの状況を伝えて頂きたい。

３点目。話し手の手話表現のコピー通訳は、主観を入れないで見た通りにそのまま伝えて頂きたい。

高橋／

通訳・介助員の中には盲ろう者のために「してあげている」という考えの人もいる。そういう人を観察していると共通点がある。

１点目。「してあげているのだから、この程度でよいだろう」と考える人。スキルは向上していかない。

２点目。盲ろう者と通訳・介助員とで意見が対立したとき、結論ありきの話をする。「あなた（盲ろう者）が理解出来ていないからわからない。理解すれば私（通訳・介助員）の言っていることが正しいとわかるはず」ということを言う。

３点目。対等な立場だったら到底言わないことを面と向かって言う。「してあげているのだから対等ではない、私の言うことを聞きなさい」ということだろう。

盲ろう者のために「してあげている」という信念で仕事をしているとこれらの３点に陥りやすい。

大切にして欲しいのは、盲ろう者を中心に置くけれど、通訳・介助活動は自分を成長させるため、人生を豊かにするため、自己実現をするため、という気持ち。そうすれば「この程度でよい」とは思わない。勉強し、技術を磨き、意見が対立しても当たり合うだろう。なぜ通訳・介助活動をしているのかしっかり信念を持って頂きたい。

北澤／

通訳・介助の仕事の基本は私と話し手のコミュニケーションを繋ぐサポートである。通訳・介助員と一緒に買い物に行き、店員に聞きたいことがあり、質問して答えてくれた。何度か繰り返し、最後に通訳・介助員が店員に対し「ありがとうございました」と言った。本来であれば私が先に言うべきである。店員と私を繋いでもらう、これが通訳・介助員に求めることである。

鍬形／

通訳・介助員と一緒に運動に行き、帰りに通訳・介助員が誰かと話していた。後ほど誰と話していたのかを聞いたが、本来であれば「前から〇〇さんが来ている」と伝え、挨拶をするのが当然だと思う。盲ろう者抜きで話すのはよくないことである。

**質問５．また会いたい、通訳・介助をお願いしたいと思うのはどんな通訳・介助員ですか。**

高橋／

私はもっと自分の精神的世界を広げ、勉強し、成長したいと思っている。色々な所に行って色々なことを考えたいが、盲ろうだから１人で色々な所に行って考えるのは難しい。

目の前にある映像や聞こえてくるものの情報は膨大である。全てを通訳するのは無理なので取捨選択して伝えるしかない。その方法は通訳・介助員十人十色で腕の見せ所とも言える。「高橋さんが見えて聞こえている人なら、何が見えて何が聞こえているだろう」という想像から取捨選択し、私に伝えてくれれば大変ありがたい。それで自分の精神的世界を広げ、発見し、もっと成長していけるだろうと思う。その取捨選択のセンスの良い通訳・介助員にこれからもお願いしたい。

北澤／

相手とのコミュニケーションをきちんとサポートしてくれる人。

鍬形／

私のことを理解し、私と共に歩んでレベルアップしてくれる人がよい。地元では通訳・介助員が非常に少ないので、養成講座を開き、通訳・介助員を増やしたい。皆さんも研修会に参加してレベルアップし、どんな盲ろう者でも対応出来るように頑張って欲しい。

石黒／

盲ろう者が孤独にならないように万遍なく情報を伝えてくれる通訳・介助員がいれば助かる。

また、ろうベースの盲ろう者における手話通訳のニーズは様々であるが、特に年配の場合、わかりやすい手話に変える通訳が望ましい。

**質問６．通訳・介助を受ける中で感じた喜びは何ですか。**

鍬形／

数年前までは盲ろう者ではなく視覚障害者だった。盲ろうになり、皆さんの通訳・介助を受けられとても良かったと思っている。どんどんこれからもスキルアップして頑張って欲しいと思う。

石黒／

通訳・介助員との信頼関係が出来、その絆のもとで社会参加を楽しめるのは大きな喜びである。

高橋／

通訳・介助員と一緒に動き、その結果、感動的な場面や人に出会え、そうやって自分の世界がどんどん広がり、その瞬間は至福のときである。もし通訳・介助員がいなければどんな生活をしていたのだろうか。きっと今みたいニコニコしながら生きていないだろう。書斎に閉じこもるだけの生活をしていただろうと思う。私があちこちに出向いて皆さんの前で話せるのは通訳・介助員がいるからである。だから私にとって皆さんは大事。技術も心も磨いて日本の盲ろう者福祉を一緒に向上させて欲しい。

北澤／

３０代後半で視力が落ちてきて、単独の外出には限界があった。しかし盲ろう者登録をして通訳・介助員と一緒に動くようになって行動範囲が広がった。子どもたちの生活のサポートも出来るようになり楽しみが増えた。地域で生活出来ることが一番嬉しい。盲ろう者が地域で暮らせることに感謝している。

**受講者からの質問１．**

**「今日の通訳はどうでしたか」と聞くことがある。盲ろう者は遠慮しているのか「何もない」と言う。盲ろう者からどう見られているのか、通訳・介助員に向いていないのではないかと思うこともある。アドバイスがあればお願いしたい。**

高橋／

「私は上手になりたいので、今日の通訳・介助でどこを改善したら良くなるか教えて欲しい」と言えばいくつかのヒントは言ってくれるだろう。

**受講者からの質問２．**

**人見知りで初めて会う人に話しかけられない。どうすればよいか。**

北澤／

最初に「恥ずかしいが、よろしくお願いします」と挨拶すればよい。盲ろう者もわかりやすいのではないか。

鍬形／

自分の好きなことを話して、それで盲ろう者が好感触であればそれを話していくのもよい。盲ろう者が好きなことを話題にすればよい。

石黒／

コーディネーターや盲ろう者専用の相談員を介して、自由に話し合う時間を作ることで、コミュニケーションの様子等を理解する。お互いに気持ちが打ち溶けるまでは時間がかかるのではないか。

**受講者からの質問３．**

**複数の通訳・介助員が担当する場合、工夫していることや困ったこと、要望があれば教えて欲しい。**

北澤／

友の会の行事の際、通訳・介助員は３名で、癖が様々で困った。そのことを地域の設置通訳者に相談した。３名だと癖の把握が難しいが、２名だと癖も容易に掴める、とのことで、それ以降３名体制ではなく、２名体制でお願いをしている。

「待つ」という手話はあごに手を持っていき表現するが、触手話の場合は盲ろう者の手のひらに、通訳・介助員の手を軽く打ちつける表現をする。しかしそれを「ストレス」と読み間違えてしまったことがある。そういったことから癖があると読みにくい。通訳・介助員もコーディネーターもその癖を把握し、盲ろう者からの色々な意見を聞いていかなければならない。

鍬形／

経験が少なく、複数の通訳・介助員から通訳・介助を受けたことは数回のみだが、交代の際のタイミングは通訳・介助員に任せ、交代の際に教えてもらえればそれでよい。

石黒／

私は触手話で情報保障を受けている。

パワーポイントのデータがスクリーンに提示される講演において、話者の話しとパワーポイントの両方の内容をタイミングよく通訳するのは極めて困難である。１５分交代で、一人の通訳・介助員は話しの内容を通訳し、もう一人はパワーポイントの内容をメモし、終了後、その内容をメモによって補足説明してもらうことにしている。しかし、パワーポイントは画像情報もあり、なかなか情報を入手できない。

このような課題を解決するために、近いうちに触手話に関する研究会を立ち上げたいと思っている。

高橋／

全国大会や研修会では２名の通訳体制が多い。交代は通訳・介助員にお任せしている。今まで問題は生じていない。余談だがオーストラリアの通訳・介助員は、交代の時間になると号令がかかり、会場内の全ての通訳・介助員が交代する。

【考察】

この全体会では普段、通訳・介助員が聞きたいと思っている、盲ろう者の本音を率直に話して頂き、耳の痛い話も含め、貴重な話を聞くことが出来た。

全体会を通して、以下の４点に着目すべきではないかと考えた。

・何故そのようなことが起きるのか。

・盲ろう者が、気持ちや要望を通訳・介助員になかなか言えないのは何故なのか。

・主体は誰なのか。

・それぞれの盲ろう者が、自身で判断や決定するために必要な情報提供とは何か。

これらを通訳・介助員自身が常に心に留め、自身の活動を振り返り、また原点に立ち返り、考えることが大切だろう。

通訳・介助という仕事は、「盲ろう者の社会参加に大きく関わっている」ということ、また「盲ろう者の日常生活を大きく左右する場合もある」という緊張感を常に持ちながら活動したいものである。

この全体会を通して感じたことは、「盲ろう者が求めているのは“向上心を持った通訳・介助員である”」ということ。他者の言葉を伝え、状況の説明をする、という通訳・介助の仕事においてパーフェクトはありえないが、そこを目指して努力を重ねることこそが何より大切であると感じた。

盲ろう者も通訳・介助員も対等の立場にあり、共に歩み、高みを目指す「同志」という関係を築いていきたい。

パネラーの方々のお話を聞きながら、如何に通訳・介助員を大切に思っているかがひしひしと伝わり、胸がいっぱいになった。だからこそ、私たちは一つひとつの通訳・介助を真摯に丁寧に行うことが大事である。

　（文責：畑中 みさよ）

３－２．Ａ分科会「通訳・介助員の悩み」

助言者：

北澤 真紀氏

佐藤 誠住子氏（福島盲ろう者友の会 事務局員）

畑中 みさよ氏

司会：

佐々木 聖子氏（岩手盲ろう者友の会 通訳・介助員）

ねらい：

通訳・介助活動を続けていくということは、悩みも絶えず付きまとっているだろう。

このように、日々抱えている悩みを事前アンケートに記入頂き、それを全国の通訳・介助員と共有し、盲ろう当事者を交えて解決の糸口を見つけることを目的としている。

内容：

（１）事前アンケート結果についての話し合い

（２）助言者からのコメント

（３）感想

研修会開催前に受講者に対し、以下の内容で事前アンケートを行った。

＜設問１＞通訳･介助員になったきっかけは何ですか。

＜設問２＞通訳･介助活動で「嬉しい、やっていて良かった」と思うこと。

＜設問３＞通訳･介助活動で、困ったり不安に感じたりすること。

＜設問４＞悩みやストレスを感じた時に相談する相手（または機関）はいますか。

＜設問５＞その他、この分科会で聞きたいと思うことなど自由にお書きください。

（１）事前アンケート結果についての話し合い

設問１と２は、時間の都合上割愛したので、事前アンケート結果のみを掲載する。

＜設問１＞通訳･介助員になったきっかけは何ですか。

＜回答＞

・目の見えにくくなったろう者のために専門的な知識が必要だと思い、研修会や講座に参加した。

・手話通訳者に勧められた。

・知人に盲ろう者がいるため、勉強したいと思った。

・友人の兄弟が盲ろう者で、友人から講習会の受講を勧められた。

・先輩の通訳･介助員に誘われた。

・ヘレン･ケラーの本を読んで。

・手話サークルに来る盲ろう者がおり、その人に合った支援が必要だと思ったため。

・点訳ボランティアだけではなく別の活動もしたいと思った。

・ボランティアで盲ろう者に出会い、もっと触れ合いたい、何か協力出来ることはないかと思い研修を受け

た。

・手話通訳と通訳･介助を兼ねている方がおり、その影響を受けた。

＜設問２＞通訳･介助活動で「嬉しい、やっていて良かった」と思うこと。

＜回答＞

・情報が乏しい盲ろう者に情報を提供すると、笑顔が見られること。

・買い物をしたり、他者と交流して嬉しそうに活動している盲ろう者の姿を見られたとき。

・自身も身体障害者なので気持ちが少しわかる。手伝いたい。

・盲ろう者から「あなたが通訳･介助員ですごく楽しかった」と言われたこと。

・「ありがとう、居てくれてよかった」と言われたとき。

・色々な出会いがあったこと。

・役に立てたと思ったときや盲ろう者と日常会話が出来たとき。

・うまく通訳が出来てすぐに理解してもらえたとき。

・「楽しかった、また行きたい」等の言葉をもらったとき。

・触手話でコミュニケーションが取れたとき。

・盲ろうの他、知的障害のある方と身振り手振りで通じたとき。

設問３からは、受講者と事前アンケート結果について考えながら意見交換をした。

＜設問３＞通訳･介助活動で、困ったり不安に感じたりすること。

＜回答１＞

正確に伝わっているか、わかりやすい表現や通訳が出来ているか、伝わらず我慢してもらうことが多いの

ではないか。

【受講者からの意見】

・後で盲ろう者に確認すると、間違った意味で捉えていることがあった。もっとわかりやすい表現で伝える必要があると感じた。柔軟な対応力も必要だと思う。

・盲ろう者の表情を注視して通訳している。

【北澤氏からの助言】

不安に感じた時には盲ろう者の表情を確認することが大切である。盲ろう者によっては、頷いていても内容がわかっていない時もあるので、工夫して表現を変えてみる方法も有効だろう。ろう者の通訳･介助員は全体手話通訳の表現をそのまま表出するのではなく、普段、盲ろう者が使う表現に変えるとよい。一番大切なのは、盲ろう者と何でも言い合える信頼関係を築くこと。どこまで理解出来ているのか見極める力を付けて頂きたい。

また、聴者の通訳・介助員は状況説明が苦手な人もいるが、ろう者の通訳・介助員は観察力に優れており、状況説明に長けている方も多い。ろう者、聴者が共に協力し、状況に合わせた通訳･介助が行えることが望ましい。

【佐藤氏からの助言】

伝わっているか確認しようとすることは、大切なことだと思う。盲ろう者の立場を考えて、自分の技術の足りなさを認識出来ることが通訳・介助員として大事なことである。その場で内容が正しく伝わっているか確認出来ると、不安なく通訳することが出来る。

【畑中氏からの助言】

通訳･介助員という立場で現場に入ったときは、盲ろう者に正しい情報を伝えることがプロの仕事である。チームとして力を合わせ、ひとつの作業に取り掛かることが大切である。

＜回答２＞

待ち合わせの際、遅刻の連絡が出来ないときは不便で不安になる。

【受講生からの意見】

・事前に下見に行く、下調べをしっかりする等の対策を行うと失敗は無くなると思う。

・通訳･介助依頼の時間帯に無理があるときは断る。

【佐藤氏からの助言】

「早起きが苦手で早朝の通訳・介助依頼は避けたい」などの情報は事前に派遣事務所に伝える。その方がコーディネーターとしても助かる。失敗しても、めげずに活動して欲しい。もし、待ち合わせ場所に行けないときはコーディネーターに連絡をする。近隣の通訳･介助員に依頼するなどの対応が出来る。

＜回答３＞

耳が聞こえないので、もし何か起きたらと不安になる。盲ろう者が無事に家に帰れるようにといつも思う。

【受講生からの意見】

駅員に協力してもらい、下車駅を知らせてもらう方法もある。（盲ろう者が１人で電車で帰る場合）

【畑中氏からの助言】

盲ろう者が１人で無事に自宅に帰れるのか心配になるのは、通訳･介助員ならば皆同じ気持ちである。もし、ろう者の通訳･介助員が一日の業務を無事に終えられるのか不安であるという意味なら、注意深く周りを観察することが大切である。また、そういう気持ちを持ち続けて欲しい。

【北澤氏からの助言】

出来るだけ交通量の少ない道を選ぶようにしている。

【佐藤氏からの助言】

何かあったら派遣事務所に連絡するよう通訳・介助員には伝えている。

駅では駅員に協力してもらう（例：下車駅や下車時間を予め伝える、通訳・介助員の待つ改札まで連れて行ってもらう）等色々な工夫が出来る。それらは盲ろう者の自己責任のもとに行っている。盲ろう者と確認しながら安全な通訳･介助活動をして頂きたい。

＜回答４＞

通訳に時間がかかり、周囲から「まだ終わらないの？適当にすればよい！」と言われること。

【受講者からの意見】

・こんなことを言う人の気持ちがわからない。

・一般の方から言われることもあると思う。盲ろう者の理解を広めていきたい。また未然に防ぐために事前の打ち合わせが必要である。（例：レジに並ぶ前に小銭の準備をする等）

【北澤氏からの助言】

「適当に」という言葉は良い言い方ではない。通訳･介助員は工夫し、話のポイントを伝えるようにして欲しい。料理に例えるなら“技術”よりも“工夫”して腕を上げていくように、通訳・介助員も工夫する気持ちをもって欲しい。

＜回答５＞

ろう者なので全体手話通訳を見て盲ろう者に伝えるが、その手話通訳者が盲ろう者の話を読み取れず、

ごまかすことがある。そうすると流れが把握出来ず、盲ろう者に伝えられなくなる。

【受講者からの意見】

ある通訳・介助員が間違ったまま盲ろう者の読み取りをした。ろう者の私はその都度訂正した。そんな経験から、読み取りは聴者に任せるだけではなく、口形の確認が出来るなら、ろう者も聴者の読み取りの確認をしたほうがよい。正しい読み取りをすることが大事だと思う。

【北澤氏からの助言】

ろう者も聴者も、お互いに通訳・介助員としてフォローし合い、協力して頂きたい。

＜回答６＞

音声で話せる盲ろう者の声を上手く聞き取ることが出来なく、何度も聞き返すことも出来ない。

【北澤氏からの助言】

盲ろう者を傷つけるかもしれないという思いで聞きにくいが、そこはやはり聞くべきだろう。盲ろう者の性格に合わせた聞き方を工夫するのが望ましい。

＜設問４＞悩みやストレスを抱えたときに相談する相手（または機関）はいますか。

＜回答＞

・手話サークル員

・夫

・ろうあ者協会

・通訳･介助員

・派遣事務所

・友の会事務局

・相談出来る人はいるが、深い所までは相談出来ない

・相談したことがない

【受講者からの意見】

活動を始めて４年半は相談出来る場所が無かった。今年から決まった曜日に自由参加で通訳･介助員が集まり悩みを共有している。

【佐藤氏からの助言】

盲ろう者、通訳･介助員同士が信頼関係を築いて、はじめて良い通訳･介助が出来る。それが出来ず、一人で悩みを抱え、通訳･介助活動を辞めてしまう場合もあり残念に思う。派遣中の悩みは、報告書に問題点などを記入してもらえると次に繋げる良いヒントにもなる。遠慮しないで派遣事務所に相談して欲しい。

＜設問５＞その他、この分科会で聞きたいと思う事などご自由にお書きください。

＜回答１＞

男女の関係（独身の男性への対応）

【畑中氏の助言】

通訳･介助員の心構えが大切である。通訳･介助員として毅然とした態度をとるのが望ましい。また、盲ろう者が何故そのような行動をするのか、理由を観察する目線も必要である。

＜回答２＞

事前に学んでおくことがあれば教えてほしい。

【北澤氏の助言】

先輩の様子を見て学ぶこと、失敗を繰り返しながら学ぶことが必要だと思う。

＜回答３＞

派遣事務所との意思疎通が出来ない。こちらの言い分を十分に聞かないまま、派遣事務所の言い分を押

し付けるように終わらせるので相談しても先が見えない。似たような問題の解決策があれば聞きたい。

【佐藤氏からの助言】

派遣事務所の職員が未熟なのかもしれない。みんなでその職員を成長させていかなければならないと思うが、歩み寄りも大切である。解決しないときは自治体の担当者に相談する方法もある。

（２）助言者からのコメント

【佐藤氏】

私が盲ろう者と関わるようになって２０年近くが経った。この世界は自分を磨いてくれた場でもあったと思う。悩みも沢山あったが、みんなと相談出来ることで新たな通訳･介助に繋がっていくのだと感じた。信頼関係を築いていくことはとても大切である。また、盲ろう者から感謝されることで励みにもなる。受講者の方々は自分を磨こう、自分の技術に甘えることなく支援していこう、という気持ちの方々だと思う。ぜひ、これからも通訳・介助活動に励んで頂きたいと思う。

【畑中氏】

通訳･介助の仕事で同じ現場、同じ状況は無い。また、通訳・介助において完璧を目指す人がいるが、それは難しいだろう。しかし、そこを目指すからこそ、みんな悩み苦しみ、成長していくのだと思う。成長の仕方はそれぞれ違うが、出会ってすぐ私たちを信頼してくれる盲ろう者の気持ちに対して、真摯に応えていかなくてはならない。そのためには、このような学習を積み続けていくことが大事だし、仲間がいることで心強くもなれる。

【北澤氏】

頑張っている人ほど悩みはある。何もしない人は悩みも無い。頑張っている気持ちを大切にして欲しい。自分自身、盲ろう者として色々な人と出会い、通訳･介助員や盲ろう者をサポートしていきたい。

（３）感想

ろう者の通訳･介助員が半数を占める分科会であった。それは、ろう者にも通訳･介助員としての活躍の場が増え、それに伴い、様々な悩みも生じてきたということである。想像以上に多くの意見が出て大変有意義な分科会であったが、時間の関係で全ての回答に応えることが出来なかったのは残念である。助言者の方々は、盲ろう者、通訳･介助員、事務局員という顔ぶれで、それぞれの立場でわかりやすく的確なアドバイスをして頂いた。

設問１と２については、事前アンケート記入時に初心に返り、活動の中で喜びを感じた時の気持ちを思い出して欲しいというねらいがあった。キャリアを積むほど悩みも多くなるが、時には原点に帰ることも必要だろう。

これからも仲間との信頼関係を大切にして活動に励んで頂きたい。

（文責：佐々木 聖子）

３－３．Ｂ分科会「音声通訳」

講師：

高橋 信行氏

鍬形 和志氏

ねらい：

通訳する上で留意すべき点、通訳上難しい場面などを皆で共有することを目的に、通訳・介助実習を行い、その後の振り返りを通じて通訳・介助技術を学ぶ。

以下、講義で使用したスライドを記載する。

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |
| 7 | 8 |
| 9 | 10 |
| 11 | 12 |
| 13 | 14 |
| 15 | 16 |

３－４．Ｃ分科会「通訳・介助員の心構えと倫理」

講師：

前田 晃秀氏（東京都盲ろう者支援センター　センター長）

ねらい：

社会的責任を自覚し、ルールを守り公正に職務を遂行するため、今一度、通訳・介助員の心構えと倫理を考える。

以下、講義で使用したスライドを記載する。

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |
| 7 | 8 |
| 9 | 10 |
| 11 | 12 |
| 13 | 14 |
| 15 | 16 |
| 17 | 18 |
| 19 | 20 |
| 21 | 22 |
| 23 | 24 |
| 25 | 26 |
| 27 | 28 |
| 29 | 30 |
| 31 | 32 |
| 33 | 34 |

３－５．全体会「福祉制度について」

講師：

前田 晃秀氏

山下 正知（社会福祉法人 全国盲ろう者協会　事務局長）

司会：

橋間 信市（社会福祉法人 全国盲ろう者協会　事務次局長）

ねらい：

2016年４月より、障害者差別解消法が施行され、また、障害者総合支援法の改正に伴う動きも気になるところである。そのような状況を踏まえつつ、あらためて、盲ろう者を取り巻く福祉制度を学ぶ。

以下、講義で使用したスライドを記載する。

前田氏スライド①

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |
| 7 | 8 |
| 9 | 10 |
| 11 | 12 |
| 13 | 14 |
| 15 | 16 |
| 17 | 18 |
| 19 | 20 |
| 21 | 22 |
| 23 | 24 |
| 25 | 26 |
| 27 | 28 |
| 29 | 30 |
| 31 | 32 |
| 33 | 34 |
| 35 | 36 |
| 37 | 38 |
| 39 | 40 |
| 41 | 42 |
| 43 | 44 |
| 45 |  |

前田氏スライド②

|  |
| --- |
|  |
|  |

山下スライド

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |
| 7 | 8 |
| 9 | 10 |
| 11 | 12 |
| 13 | 14 |
| 15 | 16 |
| 17 | 18 |
| 19 | 20 |
| 21 | 22 |
| 23 |  |

書名：平成２８年度 盲ろう者向け通訳・介助員現任研修会報告書

発行：平成２９年２月１０日

発行・編集：～日本のヘレン・ケラーを支援する会®～

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

〒１６２－００４２

東京都新宿区早稲田町６７番地 早稲田クローバービル３階

ＴＥＬ　０３－５２８７－１１４０　　　　ＦＡＸ　０３－５２８７－１１４１